

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 山口県立周防大島高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒742-2806
山口県大島郡周防大島町西安下庄489

E-mail suo-oshima-h@ysn21.jp

Website http://www.suo-oshima-h.ysn21.jp/

児童生徒数 男子 132 名 女子 122 名 合計 254 名
児童・生徒の年齢 16 歳 ~ 46 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(1) 1 年間の主な活動内容

本校の教育実践のテーマ

『地域の課題に積極果敢に挑戦し、未来をひらき、支え続ける若い世代の育成』
～ 少子高齢化・人口減少・過疎化に挑戦する高校生～

1 ねらい

将来、日本各地で起こり得る少子高齢化・人口減少が、今まさに急速に進行している周防大島に位置する唯一の高校として、地域の課題に関する探究的な学習活動や地域への貢献活動を通して、これらの現代的課題の解決に向けて積極的に挑戦し、地域コミュニティの持続、活性化に寄与する志と実践力を育むことにより、地域の未来をひらき、人との絆をつなげ、広げる若い世代を育成する。

2 今年度実践内容

(1) 時代や地域のニーズに応える学科「地域創生科」での特色ある教育活動

過疎化や高齢化が進行する地域で、若者が生きていくための産業である「福祉」と新しい「ビジネス」の 2 つのコースで地域の活性化をめざして活動した。

福祉コース：1年次の地域創生科の生徒は、地域の高齢者施設を見学し、これから学ぶ福祉の現場について学んだ。2、3年次生は、地域の高齢者施設での実習を通して、普段学校で学んでいる福祉の知識がどのように生かされているのかを実践的に学んだ。また、施設の利用者とのふれあいを通して、実際にコミュニケーションをとることの喜びを味わった。

ビジネスコース：

ビジネスコースでは、周防大島地域の活性化に向けて、周防大島の魅力を発信するための活動を行った。今年度は、新たな取組として、オリジナルのハンドタオルを開発し、販売を行った。さらに、周防大島の魅力をイメージしたアロハシャツの開発も行い、完成させた。



(2) ふるさとへの誇りと愛着を育む教育活動の系統的・計画的な展開

学校設定教科「地域創生」(2・3年次)の基礎となる、「総合的な学習の時間」(1年次)の中で、「島がすき、学校がすき、そこで生きてる人がすき」をコンセプトとする「島・学・人プロジェクト」を行い、地域について多角的に考える様々な活動を展開した。

ア 「総合的な学習の時間」での取組

島や学校の魅力を調査・発信するとともに、島の起業家等との交流により、豊かな人間性・社会性を育成するための活動を行った。

イ 学校設定教科「地域創生」

地域での実践的活動を通して、地域経済・産業等の発展に寄与するとともに、環境と共生する持続可能な社会を築き、活力ある地域づくりに貢献する人材を育成している。

今年度、フィールドワークⅠの授業では、山口県庁の職員を招いて「県政出前トーク」を行い、山口県が抱える課題について学び、その上で地域の課題を解決しようという人材の育成に取り組んだ。また、2学期以降は、防災・食・歴史・文化の4コースを全員が順番に体験した。防災コースでは、搬送法についての実習やハザードマップの作成、気象予報士などの専門家からの講義の受講などを行った。文化コースでは周防大島町と姉妹島縁組みをしているハワイカウアイ島の文化を学び、レイ作りやフラに取り組んだ。歴史コースでは、幕末の「大島口の戦い」の戦跡をめぐるなど、郷土の歴史を学習した。食コースでは周防大島町が取り組む「ちょび塩」料理を学んだ。

3年次生が取り組むフィールドワークⅡでは、「セルフプロデュース」をテーマに、自己表現の方法を身につけることを目標に学習を行った。

自然コースでは実際に現地調査を重ね、周防大島の成り立ちを学ぶと共に、新たな観光スポットの発掘を行った。文化コースでは、アロハシャツの制作

を行った。音楽コースでは、地域に残るわらべ唄を学び、生徒がわらべ唄を作詞作曲し、地元の保育園で披露した。CM コースでは、周防大島の魅力を動画にまとめた。

ウ 「安下庄海の市」への参加による地域貢献活動

「総合的な学習の時間」及び「地域創生」における学習の場、学習成果発表の場として、月に 1 回開催される地域の行事を活用し、各出店での地域活性化型インターンシップや「子ども夢広場」の企画・運営などを行った。

エ 「すおうおおしまキレイな海岸」フォトコンテストの実施

スマートフォン等で撮影した周防大島の美しい海岸の風景を投稿し、校内で最も美しい写真を決めるコンテストを行った。また、「安下庄海の市」で作品を展示し、地域の方に披露した。

オ 「地方創生☆政策アイデアコンテスト」

夏休みの課題として、少子・高齢化、人口減少、人口流出が課題となっている周防大島の活性化をテーマにアイデアを募集し、提出された課題の中からいくつかの案を統合して、内閣府が主催する「地方創生☆政策アイデアコンテスト2017」に応募した。その結果、2年 A 組の生徒が発表した「ヒッチハイク★リッチタイム IN 周防大島 ヒッチハイクから生まれる島民との交流」が、優秀賞を受賞した。さらに、同じく 2 年 A 組の生徒が発表した「みかんの島 周防大島をまるごとテーマパーク化 空き家や耕作放棄地を活用したオリジナル遊園地」が、日本政策投資銀行賞を受賞した。



(3) 世界の難民の子どもたちに子ども服を届ける古着回収活動

ユニクロなどを展開している株式会社ファーストリテイリングが実施している取組に参加し、世界中の難民の子どもたちのために子ども服回収活動を実施した。地域の中学校や総合庁舎などに回収箱を設置し、多くの方から、計 1826 着もの子ども服を回収することができた。体育館のフロアいっぱいに子ども服を並べ、それを見た生徒は世界とつながり、世界の役に立っていることを実感できた。

3 成果と課題

本校には島内、島外そして全国から生徒が入学している。本校を第一志望として、目標や高い意欲を持って入学してくる生徒もいれば、地元の第一志望の高校に入学できず、本校で新しい一歩を踏み出そうとしている生徒もいる。こうした多様な生徒たちが、周防大島や学校での生活を、一日でも早く肯定的・前向きに受け止めるようになるためには、周防大島のことを知ることで好きになり、その魅力を全国に発信していくことが大切だと考え、地域と協働した活動に取り組んでいる。

今年度は、政策アイデアコンテストに向けた取組を進めることで、地域が抱える課題について生徒が考え、提案を行うなど、地域貢献を積極的に行う姿勢を身につけた。

また、一昨年度から実施している難民への子ども服の提供活動（“届けよう、服のチカラ”プロジェクト）では、さらに活動を拡充させたことで、生徒は、地方からでも世界に貢献できることを学んだ。

このような取組を展開する中で、生徒たちは、自分たちにできることや地域の期待を実感しており、自己肯定感・自己有用感の高まりなどの意識の変化が見られるようになった。さらに、生徒が周防大島での生活や学校での生活を前向きに受け止め、積極的にチャレンジしていこうという意識も広がっており、このような生徒の変化は地域との取組の成果であると実感している。

また、本校は県内の公立高校では初めてコミュニティ・スクールに指定された学校であり、コミュニティ・スクールの仕組みを生かしながら、地域や学校が抱える課題を地域の方々と共有し、今以上に地域に根差した学校づくりを進めていきたい。

（２）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

周防大島の観光マップ
地域経済分析システム (RESAS)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、学校設定教科として「地域創生」を設置しており、年間指導計画を具体的に定めている。また、担当教員だけではなく、外部講師による講演やレポート作成、振り返りの時間などを設けることで課題解決型の学習を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年間指導計画を、日程や担当教員等を含めて具体的・体系的に定めている。このことにより、全体像を把握することができ、スムーズにユネスコスクールとしての活動を行うことができている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、教職員や保護者による評価のみならず、学校関係者による評価も実施している。この中で、地域で行われた「里山資本主義実践者交流会」の司会や運営ボランティア、パネルディスカッション等に積極的に参加することで昨年度以上に地域に貢献できたこと、また、本校での取組は、メディアでも頻繁に取り上げられているなど、一定の評価を得ることができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

本校では、主に Facebook を活用して、学校の様子について、毎日情報提供を行っている。学校設定教科「地域創生」で行った様々な地域貢献活動のみならず、一年次の総合的な学習の時間の一環として行った「安下庄海の市」でのボランティア活動や、国際理解・交流を目的としたハワイのカウアイ高校の生徒とのビデオチャット等について積極的に発信した。このことにより、保護者や地域の方に本校の取組みについての理解が進み、外部講師としての申し出の増加など協力が得られやすくなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、

大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本校では、一昨年から、ユニクロなどを展開している「株式会社ファーストリテイリング」が実施する「“届けよう服のチカラ” プロジェクト」に参加しており、保護者や地域の方から不要になった子ども服を回収し、世界の難民に届けることで、グローバルな視点での貢献活動に取り組んでいる。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、地域のユネスコスクールの交流会などに参加した。来年度は、ビデオチャットによる、遠隔地や海外のユネスコスクールとの交流等について、その実現の可能性を探るなど、さらに活動の幅を広げていきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

学校設定科目「フィールドワーク」等の設置に伴い、従来の講義形式の授業から、生徒が自ら考え他者と協働して課題に取り組む授業へと確実に転換している。これにより、生徒のアイデアが全国から認められるなど、生徒が自ら発案したり、データをまとめて発表したりする能力がついてきている。

(3) 平成30年度の活動計画 (200～400字程度)

平成30年度も、学校設定科目「フィールドワーク」等の時間を活用して、周防大島の歴史や郷土料理についての探求活動や、フラやレイ作りといった活動を継続して行う。また、内閣府主催の政策アイデアコンテストで受賞した経験を生かして新たなアイデアの提案に努めるとともに、予期せぬ自然災害に備えるべく、簡易避難場所の設営方法の習得など、災害に対する危機意識を高めるための活動も行う予定である。